

提携米通信

2012年2月号・黒瀬農舎



寒中お見舞い申し上げます。

今年の1月は、久しぶりに一面の銀世界の「冬らしい冬」がずっと続きました。

半地は、「雪国・秋田」と言われるように、山陸部の地域では積雪量が1メートルを超えています。でも、私たちの海沿いはぐんと少なく30センチ余りの積雪です。

それでも、仕度や精米作業場の廻りは、1週間に1度程度の頻度で夜に30センチ余りの降雪があり、その翌朝には、除雪作業に追われます。

半地の気温は、最低気温は余り下がらず、特別に寒い朝であってもマイナス5℃程度ですが、日中の最高気温が上がらず、0℃前後の日が多いという日格差がない特殊性があります。

ですので、最高気温が5℃近くまで上がる日が2、3日続く時以外は、常に道路がツルツル、テカテカのアイスバーンです。

このページの写真は、我が村を取り巻く八郎湖の冬の風物詩のワカサギ釣りのスナップです。

近年は、暖冬で凍らない年が多く、また、凍ってもごく一部の薄氷でしたが、今年は、昔のように、小型のジープなら走れるほどの厚い氷ではないものの、近年には珍しく早くから氷に覆われました。

氷の上は純白の雪原となり、休日になると、ワカサギ釣りを楽しむ家族連れのカラフルな防寒具や簡易テントの花が咲きます。

また、昔は、3月中旬頃になると、釣り人が溶け始めた氷と共に流されたり、落っこちて県警のヘリコプターや消防署のボートでの救出や、遭難者の捜索騒ぎが2、3度あると春が来たものです。

今年の氷は多分2月までは溶けず、ワカサギ釣りが楽しめると思いますので、暖かい地方の方は、我がロッジに逗留して、この厳寒期の秋田を体験下さい。



提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887



E-mail: akita@kurose.com

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

今年のお米作りの有機資材検査も徹底します。

先月4頃に2ヶ月に1度程度行われる提携米研究会の定期会議に上京しました。出張には、以前は夜行や新幹線を利用していましたが、この数年はほとんど飛行機になりました。

その理由は、早割やシニア割などの出現でJRよりも飛行機が格段に経済的になったことと、半田から秋田空港まで高速道路が出来たことです。

しかし、冬期間は、空港に駐車を愛車は、雪の中。車の中には、スコップや長靴などあっても、出張の帰路、車まで辿り着くのに大騒動。次は、雪の中から車を堀出すのに大汗。従って、雪の時期は従来通りJRを使っていました。

でも、この冬からは、空港に毎日駐車場がオープン。大助かりです。

サーベイメータ（20万～100万程度）



ところで、昨年末に、提携米研究会にガンマ線スペクトロメータ（ γ SM）が設置されました。

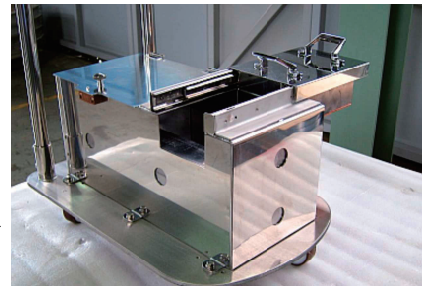
幸運にも汚染がなかった私たちは、田圃に汚染物質を持ち込まないように、有機資材の徹底した放射能検査に活用することにしました。

放射性物質の検査には、サーベイメータと呼ばれている持ち運びできる簡易な測定器がありますが、これは、1時間半たりのマイクロシーベルトやカウント数は測定できても、放射性物質毎の濃度（Bq/Kg）は測定できません。

そこで、少々高いですが食品などに含まれる放射性物質の濃度が調べられるEMFジャパン社の（211縦型）のNaIシンチレーションを選定したものです。

この日の会議には、実際結婚のフランス人の夫と共に福島原発から100キロ圏付近に肩を構え、日々暮らしを始めた矢先に原発事故に遭遇したという、聡明冷静で気丈なタイプの女性が参加されました。

彼女は「フランスに逃げ帰ることも可能でしたが、行き掛かり上、フランスから検査機器を取り寄せ、半分の間、付近の農家の土壌や農産物の放射能検査をボランティアで行うことにした。」という。その彼女の話は……、



ガンマ線スペクトロメータ
(NaIシンチレーション)（400万～600万）

「私の所へ、検査を持ち込む時の有機農家は、下を隠すためか、皆饒舌です。そして、どなたも一様に目が泳いでいます。ものすごく下ななのでしょう。」

「私は、検査結果を伝える時に、死刑宣告を出す裁判官は、このような気持ちなのかと悲しく、暗くなります。」「検査は、もう止めたいけど止められない。有機農家には何の責任もないのにとすると……暗澹たる毎日です。」

この話を聞いた私たちは、汚染を受けた農家の気持ちが胸に染み、何の言葉を発することも出来ませんでした。

政府は、原発運転を再開する。輸出する。と言う、こちらにも言葉ありません。